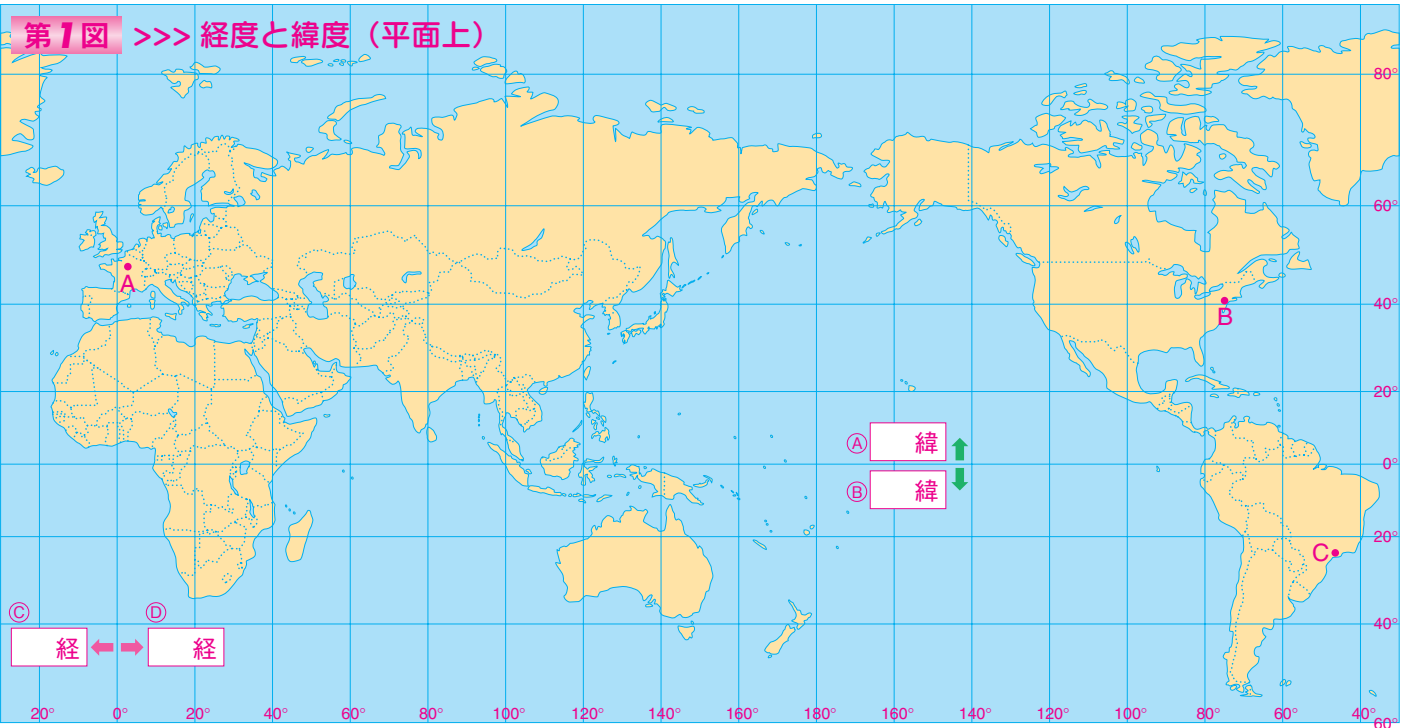


1. 地球上の位置—経度と緯度



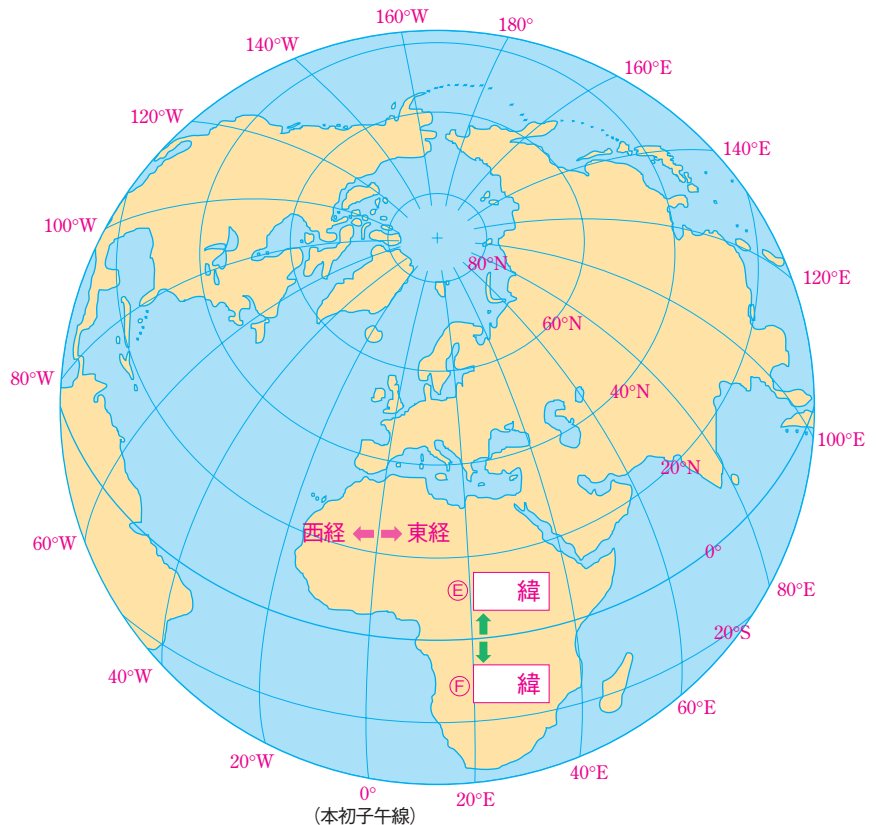
- ① 緯度は、赤道を0度とし、北極または南極に向かって90度まで、それぞれ北緯(N)何度、南緯(S)何度と使う。
- ② 経度は、旧グリニッジ天文台(ロンドン郊外)を通る本初子午線(基準となる経線)を0度とし、東または西に向かって180度まで、それぞれ東経(E)何度、西経(W)何度と表現する。東経の範囲を東半球、西経の範囲を西半球という。
- ③ 経度と緯度は、ある地点の地球上の位置をあらわすのに使われ、各々の交点として示される。たとえば東京の位置は、およそ北緯36度、東経140度である。また、東京の対蹠点(地球の反対側の地点)は南緯36度、西経40度ということになる。



作業

1. 第1図と第2図のそれぞれの、経度0度の経線を紫色で、緯度0度(赤道)の緯線を赤色でトレースしよう(なぞろう)。
2. 第1図に東京の対蹠点(南緯36度、西経40度)のところに赤色で点をつけよう。
3. 第1図と第2図の(A)~(F)の□にあてはまることばを記入しよう。
4. 第1図の南半球にある陸地を緑色で着色しよう。

第2図 >>> 経度と緯度 (球面上)



問題

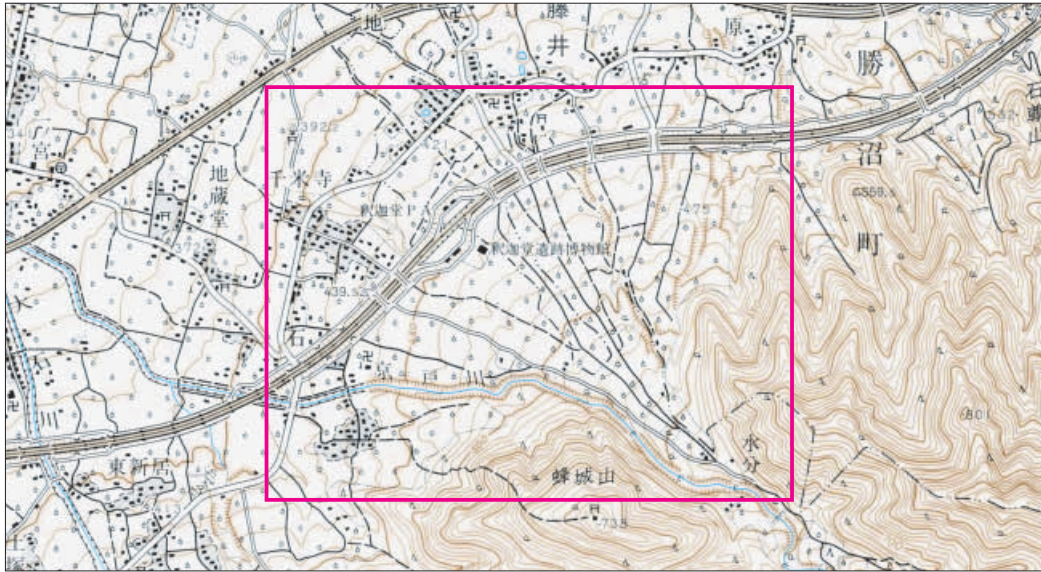
1. 次の文の()にあてはまることばを記入しなさい。
 ア. 南北アメリカ大陸は()半球にある。
 イ. 面積でみると地球の大陸の多くは()半球にある。
2. 図中のA・B・Cの都市の位置を示す経度と緯度を()から選んで記入しなさい。
 A…パ リ () ()
 B…ニューヨーク () ()
 C…サンパウロ () ()
 [24°S, 41°N, 49°N, 2°E, 47°W, 74°W]

2. 扇状地(石和)・火山地形(箱根)



- 山地から平地へさしかかる谷口では、河川の流速が弱まるので、そこに土砂が堆積して扇状地を形成する。扇状地に堆積する土砂は粒の大きい砂礫質のため、扇状地上の水は浸透しやすいので扇状地は水はけがよく、水もちの悪いところである。そのため、米作中心のわが国では開発が遅れたが、今日では畑や果樹園として利用されている。扇端では浸透した水が湧水(湧き水)となることが多い。
- 箱根火山は複式火山(三重式火山)で、はじめは明神ヶ岳・金時山・三国山・大観山などを裾野とする成層火山であったが、のちに中心部が陥没してカルデラが形成された。芦ノ湖は、そのカルデラの一部である。図中にある三国山は古い外輪山、屏風山・鷹巣山は新しい外輪山、駒ヶ岳・二子山などは新しい噴火によってできた中央火口丘である。

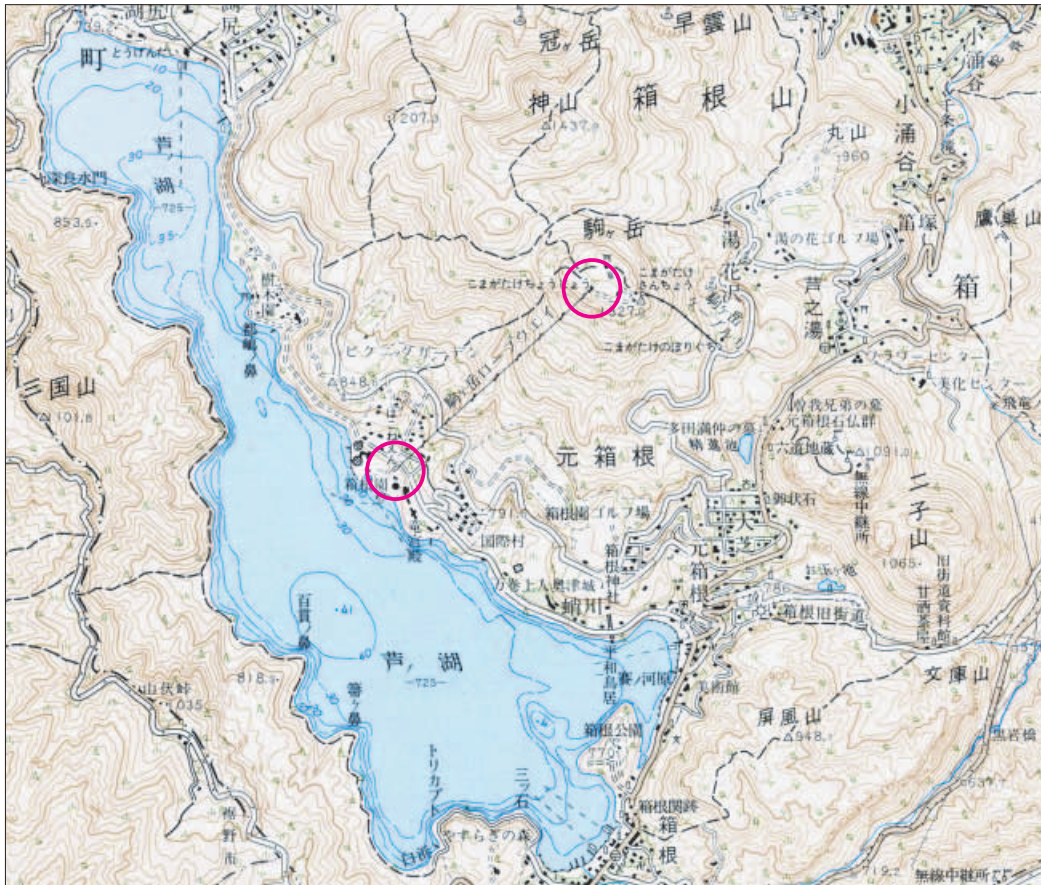
第1図 >>> 扇状地(石和・山梨県, 1:25,000「石和」)



作業

- 第1図の の中の400~500mの間の等高線をすべて茶色でトレースしよう。
- 第1図の の中の土地利用のうち、果樹園を黄色、集落を赤色で着色しよう。
- 京戸川扇状地の扇端で、水が湧き出ていると思われる所を青色で囲んでみよう。
- 第2図の神奈川県と静岡県との県境を赤色でトレースし、図中のすべての山の名を青色で囲んでみよう。
- 屏風山・二子山をとりまく800m, 900mの等高線を茶色で着色しよう。

第2図 >>> 火山地形(箱根・神奈川県, 1:50,000「御殿場」「小田原」)



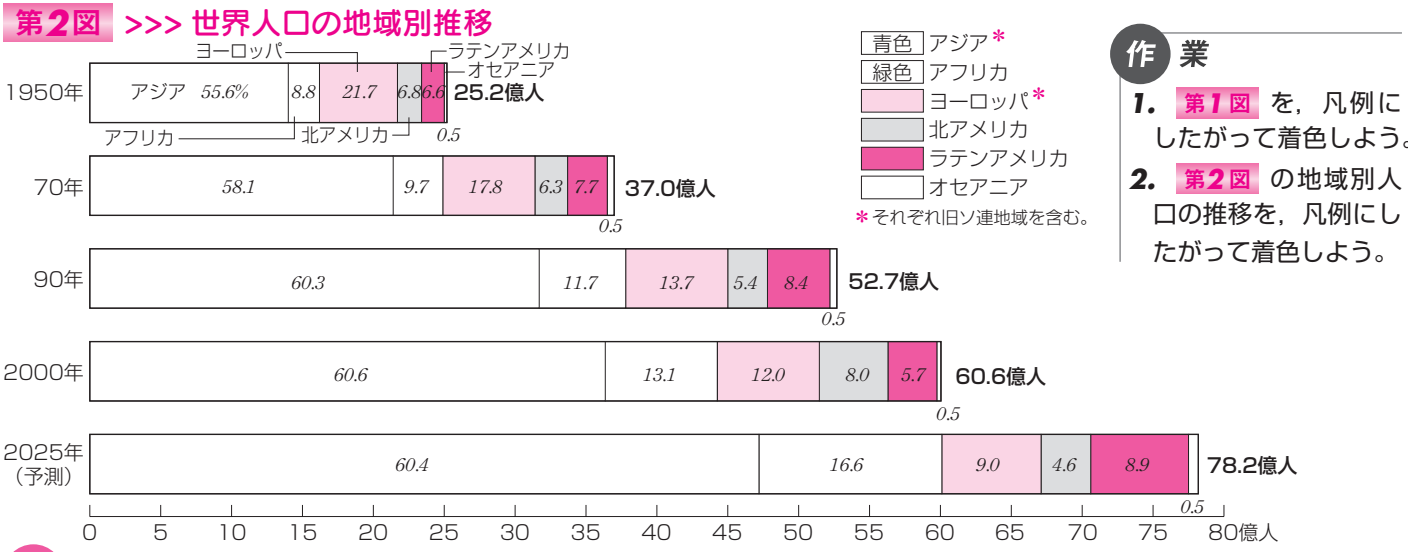
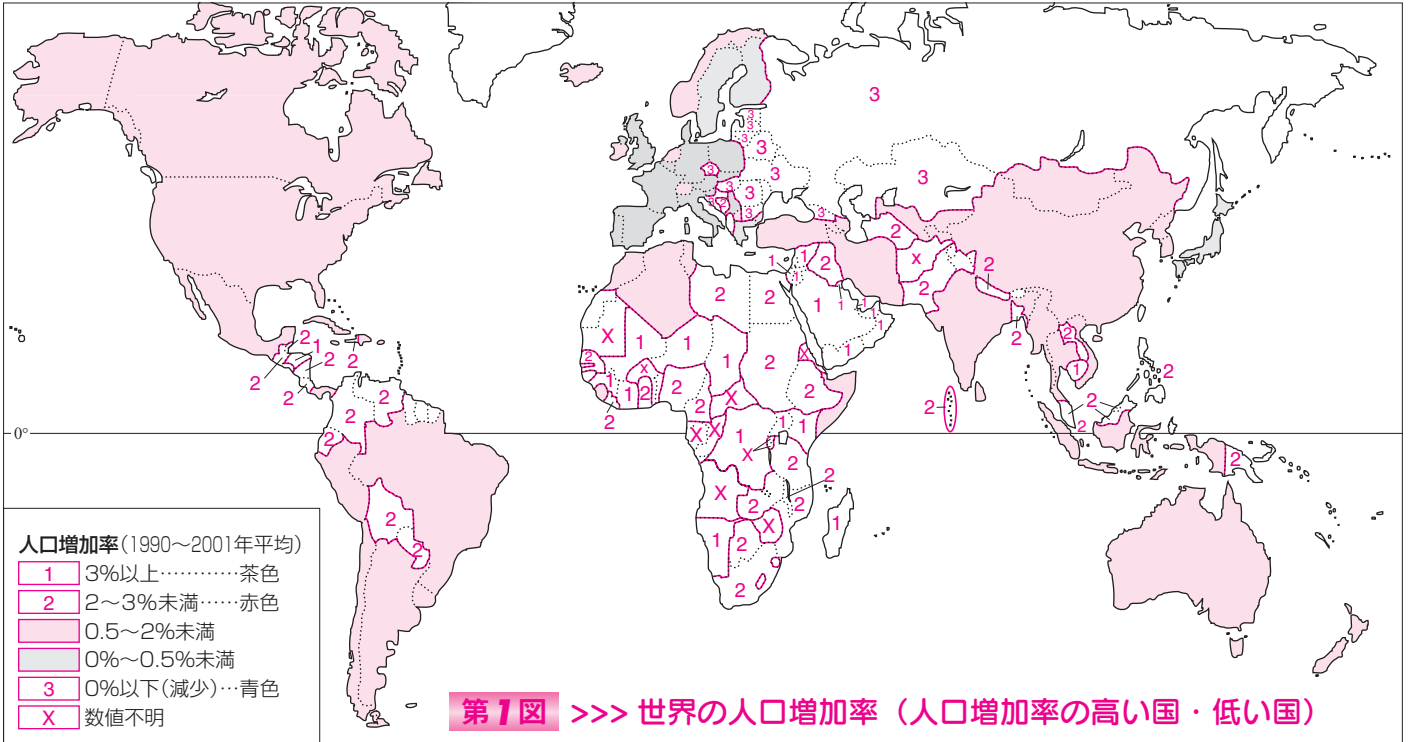
問題

- 京戸川扇状地は、谷口の水分を()として、()の方向に広がっている。
- この扇状地は()として利用されている。また、集落は約()mの等高線に近い道路に沿って形成されている。
- 千米寺の北の三角点は、標高()mを示している。
- 第2図の神奈川県と静岡県との県境は尾根を利用しているが、これは箱根火山の古い()に当たる。また、両側の等高線の間隔を見ると、内側の方が()斜面であることがわかる。
- 駒ヶ岳ロープウェイは箱根園で()m、頂上で()mなので、標高差は()mである。

1. 世界の人口と人口問題

KEY

- ① 世界の人口増加は 20 世紀後半以降とくに加速度が付き、1950 年からの 50 年間で世界人口は 2.4 倍に増えた。1990～2001 年の年平均増加率は 1.4% で、国連人口基金の推計によれば、2010 年に世界人口は 68 億人を超える。
- ② 発展途上国を中心に、人口の爆発的増加(人口爆発)が起こっており、食料や雇用などの問題が切実となっている。
- ③ 先進諸国では、出生率の低下や平均寿命の上昇が続き、人口の減少や高齢化が問題となっている。
- ④ 人口爆発は食料や資源の消費を増やし、環境の破壊に拍車をかけるなど、人類の生存にとって重大な意味をもっているが、発展途上国の人口抑制が先進国の豊かな生活の維持のために求められることは許されないであろう。



作業

1. 第1図を、凡例にしたがって着色しよう。
2. 第2図の地域別人口の推移を、凡例にしたがって着色しよう。

問題 1. 第1図 をみて、次の問いに答えなさい。

ア. 人口増加率の高い国々が多い地域を二つあげなさい。…… () ()

イ. 人口増加率の低い国々が多い地域を一つあげなさい。…… ()

2. 第2図 をみて、次の問いに答えなさい。

ア. 1950年から2000年までの50年間で、世界の人口は約何倍になったか。…………… () 倍

イ. また、その50年間で、約何億人増えたことになるか。…………… () 億人

ウ. 1950年と2000年とを比べ、世界人口に占める割合が大きく増えている地域を二つあげなさい。
() ()